

重電協同研究 第61巻第1号「CVケーブル線路における工事技術の現状と今後の展望」正誤表

頁	箇所	正誤区分	修正箇所比較	
84	第3-3-3表	誤	仕様	取締時拘束方式
			原 理	取締時には拘束力が働くが、伸び出し時の途中から拘束力が無くなる方式
			引留方式	スプリング方式
			臨界温度 t_c (℃)	$t_c = \frac{D_1 WL + K_1 + K_2}{EA \alpha}$
			ケーブル拘束装置にかかる力 F(N)	$F = 2W \cdot L \cdot \sin \theta$
			上端伸び出し量 m_1 (mm)	$m_1 = \frac{(D_1 WL + K_1 - K_2)}{4EA \mu \cos \theta} \times (2EA \alpha t - (\mu \cos \theta + 3\sin \theta) WL - K_1 - 3K_2) \times 10^3$
			下端伸び出し量 m_2 (mm)	$m_2 = \frac{(D_1 WL + K_1 - K_2)}{4EA \mu \cos \theta} \times (2EA \alpha t - D_2 WL - 3K_1 - K_2) \times 10^3$
			仕様	常時拘束方式
			原 理	常に必要拘束力を印加する方式
			引留方式	重錘方式
84	第3-3-3表	正	仕様	取締時拘束方式
			原 理	取締時には拘束力が働くが、伸び出し時の途中から拘束力が無くなる方式
			引留方式	スプリング方式
			臨界温度 t_c (℃)	$t_c = \frac{D_1 WL + K_1 + K_2}{EA \alpha}$
			ケーブル拘束装置にかかる力 F(N)	$F = 2W \cdot L \cdot \sin \theta$
			上端伸び出し量 m_1 (mm)	$m_1 = \frac{(D_1 WL + K_1 - K_2)}{4EA \mu \cos \theta W} \times (2EA \alpha t - (\mu \cos \theta + 3\sin \theta) WL - K_1 - 3K_2) \times 10^3$
			下端伸び出し量 m_2 (mm)	$m_2 = \frac{(D_2 WL - K_1 + K_2)}{4EA \mu \cos \theta W} \times (2EA \alpha t - D_2 WL - 3K_1 - K_2) \times 10^3$
			仕様	常時拘束方式
			原 理	常に必要拘束力を印加する方式
			引留方式	重錘方式